

いのち輝くいつせの里

前山小学校 校長だより

令和5年9月20日

文責 植木政行

『前山小学校の思い出』 余田明美

15年前Uターンをした時、登校する子供たちをみて「このまま子供の数が減ったらどうなるのかな」と思ったことがあります。それが今現実となり、少し寂しくもありまた新しい環境で大きく羽ばたく子供たちを思うとうれしくもあります。

今回統合を前に母校「前山小学校」の思い出を語る機会をいただき感謝しています。

私は、昭和38年に入学しました。自宅から学校まではちょうど1kmあります。

保育園に行くのも嫌がっていた私が、いよいよ小学校に通わなければならなくなりました。今思えば私よりも母の不安の方が大きかったのではと思います。

1, 2年生の時は体も小さくひ弱で、すぐにベソをかくような子供でした。集団登校時には、上級生のお姉さんがそっとランドセルを持ち上げて歩きやすくしてくれました。下校は仲のよい友達と道草をしながら帰りましたが、つらかったのは急な雨降りの日です。学校の置き傘を近所の同級生と相傘をして下校します。置き傘は番傘で重く相傘の相手は背が高く私はいつもびしょ濡れでした。それでも両親や上級生・地域の人々の支えで無事に通学できました。

3, 4年生の担任は高見先生で、徹底した体育指導で体力もつきました。今日は跳び箱が3段跳べた、今日はマットで側転ができた、高鉄棒で逆上がりができた、と自信がつくことで学校も楽しくなっていたように思います。もう一つ担任の先生の思い出として、水泳の授業で飛び込みのできなかつた私を一回の指導で飛び込みに自信を持たせてくださったのが、担任の青木先生です。先生はその日、虫垂炎の手術後のため洋服姿でプールサイドにおられ、飛び込みせず泳ぎ始めようとした私を見つけ飛び込み台に立たせ、投げ込んでくださり、飛び込みとはどういうことなのかを教えてくださいました。

高学年になり得意だったのは走ること、運動会の徒競走は内心楽しみでした。

苦手だったのは、1, 2年で習う時計の読み方で「なぜ長い針と短い針がある？ どうして動き方が違う？」こだわり始めると前に進めず、結局模型の時計を分解して納得した記憶があります。この性格は大人になっても変わっていないようです。

校歌にもある「平和の郷」で学んだ6年間、当時は何をするにも一生懸命で豊かな自然を感じ取る余裕はなかったのですが、今振り返るとこの前山の自然の中で磨かれた感性は何者にも替えがたい宝だと思えます。

2014年の丹波市豪雨災害で上級生に連れられて登った山も大きく様変わりしました。

現在、私は「復興まちづくり協同事業」としてのあじさい栽培を行っています。2017年から前山小学校の防災学習授業のお手伝いをさせていただき、毎年3年生の皆さんがあじさい畑の見学に来てくれます。「どうしてあじさいはピンクや水色の花が咲くのですか？」「あじさいを育てるのに苦労したことはありますか？」と一通りの質問を受けた後は自由に圃場内を見学してもらっています。バッタやダンゴムシを捕まえたり、孵化したキジのたまごの殻を見つけて歓声を上げたりと、自然の中での学びを楽しんでくれています。

今年度で、あじさい畑の見学は最後になると思いますが、地域活動で「自然の中での面白さや命の大切さを学ぶ」お手伝いができればと思っています。



4年生社会科見学 大阪国際空港



あじさい園での防災学習授業 (2018年)

1月生まれの僕は体が小さく、低学年の頃は小児喘息でよく学校を休みました。休んだ日はおばあちゃんとずっと一緒にいて、おばあちゃんは僕のことを「すっさん」と呼び、僕はおばあちゃんが大好きでした。

僕は喘息で見学することが多かったので水泳授業が嫌いでした。5年生で5m泳げる程度でしたが6年生の水泳記録会前に急に平泳ぎで25m泳げるようになり、水泳大会には背泳ぎにも出場し、担任の高見先生に褒められました。

僕は忘れ物をよくする子でした。母親には「帽子を忘れて一人だけ黄色い帽子を被らずに登校していた」と今でもネタにされます。沢田先生には「持ち物を思い出すように」と赤ボールペンで人差し指に指輪を書かれました。自転車の免許講習日、朝の会で「自転車を忘れました」と言ってみんなからは笑いを取りましたが、吉竹先生には呆れられ、免許証は卒業式にももらいました。

僕は当時禁止されていた切り替え式自転車を買ってもらっていましたが、得意気に乗っていたところを上級生に目をつけられ、自転車を乗り回されたのは悲しい経験です。自転車に乗れるようになると、吉見に釣りの道具や三輪に爆竹を買いに行きました。学校帰りの谷上の自転車屋さんは僕たちの溜まり場でした。

僕は土曜日の全校退散礼が大好きでした。近くの集落みんなが悪さもしながら帰っていました。大きなスズメバチの巣を潰す為に、こっそり学校に爆竹を持って行き、帰りにみんなでハチをやっつけたこともあります。昼からは大杉ダム、余田城跡、折杉神社で遊んだり、鴨阪の子と爆竹したり、魚釣りやザリガニ捕り……くたくたになるまで遊びました。近所の一つ上の男子とは土曜日の午後だけでなく、平日の帰宅後も、日曜日には一日中遊びました。

僕は、日曜日の習字教室は嫌ですぐにやめ、仲間と遊んでばかりのそろばん教室は全然昇級せずにやめ、少年野球もパッとしませんでしたが、冬場の講堂に卓球台が出される卓球だけは熱くなりました。みんなマイラケットを持って、休み時間には走って講堂へ。給食を食べるのが遅い僕はいつも悔しい思いをしていました。卓球台がある近所の子の家で切れるサーブを練習し、下鴨阪公民館でもよく卓球をしました。

夏休みの日課は近所の子たちとカブト虫捕り。虫かごに入れず帽子の中に入れて持ち帰るのが僕たち流でした。水やり当番や地区水泳は歩いて学校まで行くのが嫌でよくサボりました。片道2キロの通学路では、同級生と一緒にの時には道草をし、疲れた時には「倒れてたら誰か乗せて帰ってくれる」と道路に寝ていました。

高学年になると僕は夏休みが大好きになりました。一番楽しかったのは大杉ダムでのキャンプ。僕たちだけでテントを張り、定番のカレー、夜食にどん兵衛を食べ、花火はすべてロケット弾。昼には戦争をして遊び、夜には自転車でウロウロして眠らない時間を楽しみました。

僕は運動会の昼からも大好きでした。テントの下で集落の人や家族一緒にお弁当を食べ、バザーで買ったお菓子を学校で食べられるのが楽しく、ラムネを買ってビー玉を取り出し集めたり、講堂の二階をこっそり探検したり、古い診療所に入って肝試しをしたりして遊びました。

僕は卒業式の練習がチョー嫌いでした。寒い講堂で卒業生に送る言葉を繰り返し練習。僕はトイレを言い出せずおもらしをし、用務員さんにズボンを借りたことが黒歴史です。でも昭和57年3月の僕の卒業式には涙はなく、中学生になる期待で仲間と笑いながら講堂を出て行きました。閉校までにその仲間と同窓会をしたいと思えます。

いつか僕に孫ができたなら、竹山小学校でかけがえのない時を送ってもらいたいです。



入学式



修学旅行